

福生市教育委員会・一橋大学言語社会研究科 共催 **カルチャートーク**

チャン アイ リン

フー ラン チョン

張愛玲の文学、そして胡蘭成

2018年3月25日(日) 14:00—16:00 (13:30 開場)

会場 福生市立中央図書館2階学習室

〒197-0003 福生市熊川850-1 JR 青梅線牛浜駅東口下車徒歩7分 なるべく公共交通機関をご利用の上、ご来場ください。

入場無料／事前の申し込みは不要です

先着 50名 通訳あり

お問い合わせ 坂井洋史 (一橋大学) SAKAI.banjing@r.hit-u.ac.jp

福生市教育委員会生涯学習推進課：TEL042-551-1950



「二十世紀最高の中国文学者は魯迅と張愛玲である。」(C.T.Hsia)



張愛玲 (1920-1995)

中華圏で絶大な人気を誇る女流作家・張愛玲は、かつて福生に住み、今も福生に眠る中国人・胡蘭成と1944年から三年間婚姻関係にありました。近年本国でも再評価されている胡蘭成の存在は張愛玲の文学にも大きな影を落としています。張の小説「色・戒」を原作とするアン・リー監督のヒット映画『ラスト、コーション』(2007)や、『レッド・ダスト』(1991)は二人の関係抜きには語れません。

今回のトークは、中国の張愛玲研究の第一人者が、張・胡と日本の関係、張と映画の関わりを切り口として、みなさんを張愛玲文学へと誘います。張愛玲の作品は最近新しい翻訳も出版されました。お二人にそれぞれお話しいただいた後は、フロアのみなさんも交えた、肩肘張らない交流の場にしたいと思っています。このイベントが、張のみならず、日頃馴染みの薄い中国近代の文学に触れてみるきっかけとなれば幸いです。



胡蘭成 (1906-1981)

講師



陳子善 チェン・ツーシャン

(中国上海・華東師範大学)

「張愛玲と日本について」

(「漫談張愛玲與日本」)



倪文尖 ニイ・ウエンチエン

(中国上海・華東師範大学)

「張愛玲と映画について」

(「漫談張愛玲與電影」)

司会 坂井洋史 (一橋大学大学院言語社会研究科教授／中国近代文学研究)

●張愛玲と胡蘭成について●

張愛玲（1920年9月30日—1995年9月8日）は、中国の小説家。代表作に『金鎖記』『傾城之恋』『半生録』『怨女』『赤地之恋』『秧歌』などがある。小説家としての執筆活動のほか、『南北一家親』など6本の映画脚本を書いたり、翻訳、考証に携わった。

1920年（1921年という説も）、張志沂と黃素瓊の長女として上海で生まれる。祖父は清朝末期の大臣張佩綸、祖母は清朝末期の洋務運動の指導者の一人であった李鴻章の長女・李菊藕であった。1922年、一家は天津に引越し、張愛玲は4歳のときに私塾に入った。1928年上海に戻る。1930年、中学校に進学する際に張愛玲に改名する。同年、両親が離婚。1931年に上海にあった米国聖公会の聖マリア女学校に進学、翌年には処女作となる短編小説『不幸的她』を校内の刊行物に発表。1939年に香港大学に進学。成績優秀でロンドン大学への留学の機会もあったが、戦争の悪化により学業を中断せざるをえず、上海に戻って文学創作活動に勤しんだ。1943年、『沈香屑 第一炉香』、『傾城之恋』、『心経』など、代表作となる作品を発表。同年に汪兆銘の傀儡政権幹部の胡蘭成と知り合い、翌年に結婚。しかし、結婚期間は長くなく1947年に離婚している。1952年、香港に再び移り住む。彼女は香港における米国新聞局で翻訳の仕事の勤めたり、小説『秧歌』『赤地之恋』の執筆を開始する。1955年、アメリカに移り住む。1956年に劇作家のライヤーと知り合い結婚。1967年、夫が死去。清朝の長編小説『海上花列伝』の英文翻訳に取り掛かる。1973年にロサンゼルスに移り住む。1995年9月8日、ロサンゼルスで死去。



胡蘭成（1906年2月28日—1981年7月25日）は中国の政治家・作家・思想家・書家。浙江省嵊県に生まれる。燕京大学を国民革命軍の北伐中に中退後、やがて政治に関わり、汪兆銘政府法制局長官に就くも、汪と意見の対立あって辞職。ジャーナリストとして漢口大楚報社長をつとめた。中国の著名な小説家、張愛玲と1944年に結婚するが1947年に離婚し、1950年に日本に政治亡命。上海黒社会の大物呉四宝の未亡人であった余愛珍と再婚した。1974年、台湾の中国文化学院（現在の中国文化大学）で教えて台湾の文壇にも影響を与え、同大学から永世教授の称号を受けたが、1976年に台湾からも逐われた。日本では数学者の岡潔や物理学者の湯川秀樹、日本浪漫派の保田與重郎、川端康成等々と親交を結んだ。書を得意とし、多くの作品を残している。1970年代を通じて福生市に住む。1981年に青梅に転居するが、間もなく永眠。張愛玲は、小説『色、戒』（映画『ラスト、コーション』の原作）に登場するスパイ機関幹部に、かつての夫である胡蘭成を重ね合わせて描いたとも評される。日本でも『中国のこころ』（1956）、『今生今生』（1958）、『建国新書』（1968）、『日本及び日本人に寄せる』（1979）、『天と人との際』（1980）など多くの著書を刊行している。



胡蘭成の住まい(福生市福生556)



胡蘭成墓(福生市清岩院)



胡蘭成の書(福生市商工会)

●本日の講師について●

陳子善(チェン・ツーシャン) 1948年上海生まれ。華東師範大学(上海)中国語言文学部教授。陳子善教授は国内外の貴重な図書資料を調査し、版本を丁寧に検討する研究で豊かな実績をあげ続けている、学界で大きな影響力を持つ研究者です。陳教授の研究の柱の一つが張愛玲であり、張愛玲研究の第一人者でもあります。胡蘭成は教授が張愛玲研究の中でも重要視してきた人物であり、関連する論考も多く発表されてきました。関連する著述に『從魯迅到張愛玲—文学史内外』(2017)、『沈香譚屑：張愛玲生平創作考』(2012)、『研讀張愛玲長短錄』(2010)、『看張及其他』(2009)などがあります。

倪文尖(ニィ・ウェンチエン) 1967年江蘇省南通生まれ。華東師範大学(上海)中国語言文学部准教授。倪文尖准教授は作品の精密な読解が高く評価されています。張愛玲に関しては、学界でも広く認められた重要な概念を示しました。映画との関係についても考察し、張原作の映画『ラスト、コーション』について優れた見解を示しました。近年では胡蘭成と交錯する戦争終結前後の張愛玲について考察しています。関連する著述に『欲望的弁証法』(1998)、『張愛玲小説・留情』(1999)、『懷旧与張愛玲』(2003)、『上海/香港：女作家眼中的“双城記”』(2002)などがあります。

坂井洋史(さかいひろぶみ) 1959年東京生まれ。一橋大学大学院言語社会研究科教授、研究科長。中国近代文学史を専攻しています。長年にわたり中国本土との研究交流に努め、中国国内でも多くの著述を刊行してきました。主な著述に『懺悔と越境—中国現代文学史研究』(2006)、『逸脱と啓示—中国現代作家研究』(2012)、『巴金論集』(2011)などがあります。